

令和5年3月7日

マスク社会が与える子どもたちへの影響について情報の周知徹底を求める請願

紹介議員

櫻 裕子
早 村 高
豊 村 徹也

池野直友

請願第 1 号



令和5年3月7日

盛岡市議会議長
竹田 浩久 様

請願者氏名 子どもの未来をつなぐ会
代表 伊藤倫子
連絡先 岩手県盛岡市



マスク社会が与える子どもたちへの影響について情報の周知徹底を求める請願

請願の趣旨

1 政府より令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の分類が5類に引き下げられる方針が発表されたことを受け、基本的感染症対策の緩和について、厚生労働省厚生科学審議会感染症部会から留意点が示されました。留意点には、「マスクを含む基本的な感染対策については（中略）個人の判断に委ねることを基本とし、今では過剰とも言える感染対策は、できる限り早期に見直しを行いつつ新型コロナウイルス感染症の特性を踏まえ、有効な方法について、引き続き丁寧に情報発信し、国民の理解と協力を得られるようにすべきである」と書かれています。

2 マスク着用は個人の判断に委ねると指針が出ていますが、コロナ禍が始まり3年、感染症対策としてメディア、自治体、教育機関から一律にマスク着用を推奨され続けてきた子どもたちは、もうすでに自分の判断でマスク着用の有無を決定できない心理的状况に置かれているのでは、と大変危惧しております。

3 子どもたちのマスク着用に関しては、身体的な影響があるというデータが示されている他、子どもを取り巻く大人たちのマスク着用が心と脳の健全な発育にとっては弊害であるとの見解を示す専門家もいます（明和政子「マスク社会が危ない」宝島社新書、2022）。しかし、今までそういった弊害や危険性といったデメリットは私たち市民には周知されて来ませんでした。

4 また、新型コロナウイルス感染症の特性について、盛岡市保健所長は盛岡市議会12月定例会において「致死率は大きく減り50歳代以下の致死率は季節性インフルエンザと同程度であり、もはやありふれた身近なウイルスとなっている」と答弁しております。

5 しかし、マスク着用を個人の判断に委ねたとき、マスクを外そうと選択するための情報が市民のもとに届いておらず、適切な判断ができないのではと考えます。ウイルスに対する恐怖心を取り払うような情報と、子どもたちの健やかな成長のため市民の意識を変えるような丁寧な情報発信が今こそ必要だと考えます。

6 子どもは地域の宝、未来の宝であるとともに、私たち大人は子どもたちの健やかな成長を願ってやみません。特に率先してマスク着用を推奨してきた行政は、個人のマスク着用の議論だけではなく、マスク社会が与える影響という視点でこの問題を解消する責任があると考えます。

以上の趣旨に基づき、下記の事項についてお願いいたします。

請願事項

1、盛岡市民に対して、新型コロナウイルス感染症の特性を明示し、現時点でありふれた身近なウイルスであるという趣旨の情報の周知をすること。

2、発達段階の子どもたちにとってマスク社会が与えるメリットとデメリットが理解できるような情報の周知をすること。

3、マスク社会に対して問題意識を持ち盛岡市民一体となって解決に向かう道しるべとなるような啓発をすること。

4、上記3点について、盛岡市広報誌や盛岡市ホームページへの継続した掲載と、盛岡市からすべての学校や幼稚園などの教育機関に対して周知をすること。